

阪神新地域ビジョン シナリオイメージ 目次

阪神新地域ビジョンでは、2050年の将来像として「コ・クリエーションなまちの実現～住んでよし、働いてよし、集ってよし～」を基本理念に掲げ、阪神新地域ビジョンの実現に向けた方向性として「自分らしいスタイルが実現できるまち」、「自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち」、「みんながつながるやさしいまち」、「にぎわいのあるまち」の4つの切り口から将来の社会のイメージとして18項目のシナリオを書いています。

「課題」「将来への取組」「うまれる変化」「めざしたい姿」の4段階でシナリオを表しています。それぞれ「課題」では現在の阪神地域での活動や課題、「将来への取組」では現在取り組んでいる活動、「うまれる変化」では2030年に達成されそうな将来、「めざしたい姿」では2050年には阪神地域でこんな将来を迎えたいというビジョンを書いています。

1 自分らしいスタイルが実現できるまち

- ① 地域と趣味としごとが重なる暮らし
- ② いつからでも誰でもできるスキルアップ
- ③ 世代を問わずともに地域をつくるまち
- ④ いきいき健康100年人生

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

- ⑤ 未来まで続く花と緑と里山
- ⑥ みんなが憩う阪神なぎさ回廊
- ⑦ 再発見で魅了する「阪神間モダニズム」
- ⑧ 生涯の学びと次世代につなぐ阪神文化

3 みんながつながるやさしいまち

- ⑨ 地域で循環するエネルギー
- ⑩ 子どもの元気と世代を超えてつながるニュータウン
- ⑪ おせっかいがおせっかいでない家族のようなまち
- ⑫ みんなでつくる安全な暮らし
- ⑬ あなたも私も多文化共生の仲間

4 にぎわいのあるまち

- ⑭ アートが人を呼びひろがる交流
- ⑮ 訪れたい訪れやすい阪神地域ツーリズム
- ⑯ 多彩な農と美味しい食
- ⑰ まちなかのにぎわいを創出する
- ⑱ みんなで楽しむスポーツ

1 自分らしいスタイルが実現できるまち 地域と趣味と仕事が重なる暮らし

- 大阪や神戸のベッドタウンとして、阪神間の複数の市が毎年、「住みたいまち」ランキングに名を連ねています。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、業務のデジタル化が進行し、働く場所や働き方が変化し、「住みたいまち」は住みたいだけではない特色を顕在化しつつあります。
- コミュニティへの関わり方も変化が見られる可能性があります。

課題

●柔軟な働き方に対する勤務環境の未整備

- ・テレワークの環境整備が不十分で、企業によってはテレワークへの移行が不十分である
- ・副業ができない勤務条件になっている
- ・勤務形態や勤務時間が固定的であるため、生活スタイルに合わせた柔軟な勤務ができない
- ・家族の転勤に合わせて転居する必要があり、継続して勤務することが困難になる
- ・会社の雰囲気や有給休暇を取得しにくい、趣味ややりたいことをする時間がとれない
- ・残業が常態化しており、自分の趣味に費やす時間が不十分である

【みんなの声】

新型コロナウイルスの影響を受け、現在は会場参加と Web 参加のハイブリッド会議を運用している。Web 会議は遠方からの参加者の移動コストの削減、緊急時にはスピーディーな会議設営が可能である一方で、僅かながらタイムラグが生じたり、空気が共有しにくかったりと視覚、聴覚のみでやりとりすることに意思疎通の面ではまだまだ不足感があるというデメリットに直面している。

将来への取組

●テレワーク環境の整備など、業務環境の整備の推進

- ・企業は多様な働き方を実現するためのガイドラインを整備する
- ・企業は在宅勤務対応機器の整備等、業務のデジタル化(テレワーク)を推進する
- ・多くの企業で副業が可能になり、趣味を仕事にすることも可能になる
- ・企業が ICT 化を進めることで、業務改善により、残業時間が削減する
- ・地域住民が地域の活動への参加を促すための情報を発信する

【みんなの声】

・(移住関連の話について)新型コロナウイルスのリモートワークの普及によって、都市から離れた所でも仕事ができるという状況になれば、移住をしたいと考える人が移住のしやすい環境になり、地域との繋がりもできるのではないだろうか。

うまれる変化

●地域の活動と柔軟な働き方や生活スタイルの実践

- ・複業や地域活動を重ねることができる柔軟な働き方や生活スタイルを実現する
- ・複業の実施により、いずれかが失敗も経済的に困窮しない、セーフティネットが実現する
- ・本来業務とは違う仕事を通じて、自分がやりたい仕事を実現できるようになる
- ・転勤に伴う転居や退職が必要でなくなる

めざしたい姿

●地域と趣味と仕事が重なる暮らしの実現

- ・複業やテレワークが当たり前になり、地域活動や趣味を楽しむ
- ・家庭、職場以外の趣味や地域活動の場のサードプレイスができ、時間や気持ちにゆとりができる
- ・集う人がいて、住みたいまちに住み続けることができる

【みんなの声】

・三田市は都市部(大阪、神戸)への2ウエアアクセスでやや都会を匂わせ、また山間部を控え田舎的要素もあり、昨今の在宅勤務に最適な地域である。

・普通のサラリーマンや若者が働きながらまちづくりに関わられるような活動の仕方を考える必要がある。

・仕事と趣味、やりたいことの両立、重なりが増えてくる。

住みたいまちランキング(関西・総合)の推移 20位以内にランキングされた阪神間の駅名

| 2016 | | 2017 | | 2018 | | 2019 | | 2020 | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1位 | 西宮北口 | 1位 | 西宮北口 | 1位 | 西宮北口 | 1位 | 西宮北口 | 1位 | 西宮北口 |
| 2位 | 梅田 | 2位 | 梅田 | 2位 | 梅田 | 2位 | 梅田 | 2位 | 梅田 |
| 3位 | 神戸三宮 | 3位 | なんば | 3位 | 神戸三宮 | 3位 | 神戸三宮 | 3位 | 神戸三宮 |
| 5位 | 夙川 | 4位 | 夙川 | 6位 | 夙川 | 5位 | 夙川 | 6位 | 夙川 |
| 8位 | 宝塚 | 11位 | 宝塚 | 12位 | 宝塚 | 11位 | 宝塚 | 13位 | 宝塚 |
| 15位 | 芦屋川 | 12位 | 芦屋川 | 17位 | 芦屋川 | 17位 | 芦屋川 | 17位 | 芦屋川 |
| 20位 | 西宮 | | | 20位 | 西宮 | 20位 | 西宮 | 19位 | 尼崎 |

出典：リクルート suumo 調査

1 自分らしいスタイルが実現できるまち いつからでも誰でもできるスキルアップ

- 阪神地域は兵庫県下でも大学等の高等教育機関が多い地域で、各大学では社会人を対象とする様々な公開講座が実施されています。
- 長寿化、また雇用形態や就業形態が多様化する時代にあっては、学び直しやスキルアップのために社会人向けの高度で専門的な知識を習得する機会を求める声もあります。
- 習得した技術や知識で起業、転職などのライフデザインを描けます。

課題

●社会人がスキルを学び直せる機会が少ない

- ・学校を卒業、就職したあとに再び学ぶ機会を持つ人が少ない
- ・実社会で磨いてきた技術や知識について、学びなおしによりブラッシュアップする機会がない
- ・起業にチャレンジしたいが、失敗時の生活不安や経済的懸念があるため、ハードルが高い
- ・デジタル技術の進展で「省人化」や「自動化」が進み、生産性の低下が懸念されるとともに、高付加価値化への追求が懸念となる
- ・阪神地域には多くの大学・大学院があり、専門的知識を習得できる環境にあるが、活用されていない

将来への取組

●高度な専門的知識を習得する機会が広がる

- ・大学・大学院による社会人向けの高度な専門的知識を習得する機会が求められ、社会人用に単位の取得に考慮されている
- ・大学・大学院等において、産業界との連携・接続を強化し、人文社会科学系も含めた幅広い分野の教育プログラムを構築し、社会人が学び合う機会を拡充する。
- ・労働力の高生産性、高付加価値化の追求と実現のため、起業への理解が高まる
- ・日本企業でもジョブ型雇用が導入されるようになる

うまれる変化

●複業、転職、起業が不利にならない環境への進化

- デジタル化の進展やサブスクリプション、シェアリングエコノミーの浸透で起業の初期費用の低廉化が進む
- ・阪神地域内の大学を中心として、学びなおしを目的とする企業人のスキルアップ講座が普及する
- ・複業、転職、起業が不利にならない環境になっている
- ・卒業→就職→定年という単一的なライフサイクルの見直しになる
- ・ジョブ型雇用と定年の形骸化により、社会人自身が学び直しを必要とする

【人口減少地区で地域おこしの活動者の声】

- ・「ミニマリスト」まではいかないが、かかえこまずシンプルな暮らしがしたい。

めざしたい姿

●スキルアップ講座で身につけた力で複業、起業、転職が自由になり、スタートアップを支援するまちへ

- ・スキルアップ講座で身につけた力で複業、起業、転職が自由になっている
- ・企業と大学が連携し、リカレント教育で自己の能力を磨き直すことが常態化する
- ・起業や複業した人が集い、お互いにスタートアップを支援するまちになる

【みんなの声】

- ・一人一人のやりたいことを後押しし合える地域コミュニティ、行政サービス、企業ビジネスなどが有機的につながり合う状態になっている。
- ・企業・創業を目指す若者が、その技能・経験を身につけるため、市内多種多様な事業者が受け入れる仕組みづくりを模索するなど、自分自身が起業・創業する貴重な人材として市域の中で育ていけるシステムを構築する。

教育機関の数

| | 各種学校 | | 大学 | | 短期大学 | |
|------|------|-------|-----|-------|------|-------|
| | 国公立 | 私立 | 国公立 | 私立 | 国公立 | 私立 |
| 兵庫県 | — | 76 | 5 | 32 | — | 17 |
| 阪神地域 | — | 23 | — | 10 | — | 9 |
| 全県比率 | — | 30.3% | — | 31.3% | — | 52.9% |

大学本部（事務局）の所在地により集計
出典：令和元年度学校基本調査。R元. 5. 1 現在

1 自分らしいスタイルが実現できるまち 世代を問わずともに地域をつくるまち

- 高齢者の体力テストの結果によればは 2000 年と 2015 年の比較では 5 歳若返っています。日常生活動作が自立しているとされる「健康寿命」の延伸は、社会保障費の負担軽減だけでなく、就労や地域活動を通じた自分らしい生活の実現に大きく寄与します。
- 県下で阪神地域は女性の就業率が低い地域ですが、数多くの女性市長を輩出してきた地域であり、今なお複数の女性市長が活躍しています。誰もが活躍できる社会を目指すなかで、男性の育児取得率の向上や長時間労働を解消し、女性の社会参画や女性リーダー登用が望まれるところです。

課題

- 健康で元気なシニアが地域に多数存在
- 性別役割分担意識が未解消

・少子高齢化で、高齢者人口が増加し、高齢者人口の割合が高くなっている
地域活動の担い手が少なくなっている

(シニア)

・定年後のシニアが多数地域にいるが、意欲あるシニアの能力が地域に十分繋がられていない

・高齢者の自主的な活動組織である老人クラブは、高齢者の生きがいと健康づくりなど様々な活動をおこなっている。
老人クラブはシニア世代の社会参加の場となっているが、加入率(60才以上の人口比)は減少傾向にある

(女性)

・男性の育児参加が進まず、性別役割分担意識が解消していない

・阪神間市町に女性市長が数多くいる一方で、意志決定過程への女性の参画は低い水準にあり、女性リーダーの登用が進まない。

将来への取組

- 健康で元気なシニアの活動の場の創出
- 性別役割分担意識の解消への働きかけ

(シニア)

・老人クラブの活動内容が多角的になる

・シニアが、老人クラブのほかに生きがいや健康づくりなどの場を創出するようになる

(女性)

・長時間労働を前提とする働き方を見直し、男女ともに仕事と子育てを両立できる環境を整備し、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会の実現をめざす。

・女性が参画しやすい制度づくりに努める

【みんなの声】

・労働市場に参入していなかった人(女性、高齢者、障害者)が、自分の能力をいかし、やりがいと、生きがいを持ち、社会貢献する一方で、家族や仲間とのつながりを通じて充実した生き方(ワーク・ライフ・バランス)が浸透した社会が必要である。

うまれる変化

- 元気なシニアと地域やコミュニティとのマッチングや女性リーダーの登用が進む

(シニア)

・生きがいや職務経験から活かせるものを地域のニーズとマッチングし、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスへの取り組みが進む

(女性)

・女性の管理職比率が向上し、多様な分野でリーダーになる

【みんなの声】

・人口減少は税収の低減になり、年間一括交付金での活動には限界がくると思う。そのために各地域がある程度収益性を図り、活動を支え、かつ元気な高齢者にも活動の場を提供できることが必要と考える。危機感を持っている。
「まちづくり委員会」は5年前から事業収入を得る活動を行っており、更に拡大するため、NPO法人化した。

めざしたい姿

- 元気なシニアが地域や企業で能力を発揮
- 社会や企業など、様々な活動団体で女性リーダーが多数活躍している

・多様な働き方の実現で、障害のある方、性差など関係なく、様々な方が自分らしいスタイルを実現し、公正な処遇が確保されている

(シニア)

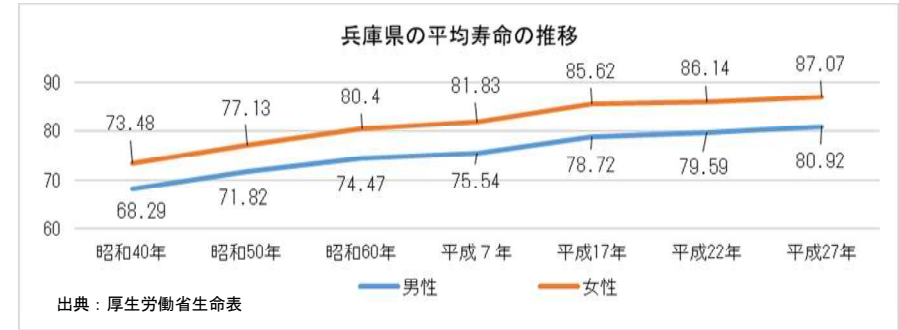
・元気なシニアや女性が地域コミュニティのみならず、企業でも能力を発揮している

(女性)

・社会や企業など、様々な活動団体で女性リーダーが多数活躍している

1 自分らしいスタイルが実現できるまち いきいき健康100年人生

- だれもが住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らせる社会の実現を望んでいます。
- しかし、少子高齢化のなか、団塊の世代すべてが2025年に75歳以上の後期高齢者になる社会が迫っています。
- 医療、介護、予防の仕組みと高齢者の持てる力を発揮しながら生活を継続できる支援や見守りで、いきいき健康100年人生を送ります。



課題

● 高齢化の進化に伴う認知症に対する理解やフレイルへの理解の必要性の高まり

- ・高齢者人口は増加し、高齢者人口の割合が高くなっている
- ・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活が送れるよう、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みを推進する方策が展開されつつある
(在宅サービスの内容や量の充実)
- ・認知症の人や家族が医療や介護の専門職、地域の人から孤立することのないよう、相談でき、安心して過ごせる認知症カフェが運営されている
- ・フレイル(加齢による心身の虚弱化)予防の取組に着手する
- ・高齢者が悪徳商法や詐欺的トラブルに巻き込まれることがある。

将来への取組

● 認知症対策やフレイル予防の取組の推進

- ・認知症カフェの整備や活動を一層進める。
- ・認知症予防体操(コグニサイズ)の普及などを進める
- ・住民運営の通いの場づくりを一層進め、認知症の住民の早期対応・早期発見に努める
- ・治療から予防へ
日常の健康管理を通じた発病や重症化の回避
- ・高齢者の周りの人たちが詐欺的トラブルに巻き込まれないように見守る
- ・認知症の疑いのある人の早期発見に向けた取組みを推進する

うまれる変化

● 医療と介護の連携の強化

- ・運動・栄養、口腔の観点も含めて高齢者の状況を確認し、住民運営の通いの場、サロン等へのリハビリテーション職や管理栄養士、歯科衛生士などと連携できるようにする
- ・パワーアシストスーツなど、活動を支える技術開発が進み、高齢者の労働を補助する
- ・視力・聴力・記憶力を高める先端デバイスが普及し、高齢者の活動領域が狭くならないようになっている
- ・QOL(生活の質)の向上をますます重要視するようになる
- ・必要な人への受診勧奨、受信結果の把握等を行い、介護サービスにつなげる取組を進める

めざしたい姿

● 健康寿命の延伸化と自分らしい暮らしの実現

- ・誰もが生涯現役で趣味、仕事、地域活動などいきいきと取り組んでいる
- ・検診体制や健康づくり活動の充実で健康が守られている
- ・ICT活用の遠隔診断・医療が導入されている
- ・元気な高齢者の増加につながる

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち 未来まで続く花と緑と里山

- 阪神地域には歴史・文化や生物などの多様性などを保つ里山が数多く残されており、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげるため、「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)構想」を推進してきました。しかし、少子高齢化により、環境保全活動団体などの担い手の不足、空き家や空き地の増加による環境の悪化などが自然環境保全活動に影響を与えています。
- これら里山を自然と安らぎの空間として維持するためには、AIやICTによる省力化を進める一方で、関係人口の増加などにより自然環境や里山の保全に関わる人を増やす必要があります。

課題

● 里山保全にかかる担い手の不足により、継承が困難

- ・日本一とも称される北摂里山の存在であるが、里山保全の担い手が不足し、空き家や空き地、放置林となった里山が増加している
- ・里山の再生を行う団体はその地域の住民でない場合があるため、地域の住民との温度差がある
- ・花や緑、水辺空間として人気の河川や都市公園が多い。(武庫川桜回廊、いーな桜街道、夙川、芦屋川など)
- ・自然と安らぎ空間のPRが十分にできていない

【生産者の声】

- ・茶道で使われる炭(菊炭)を使う人が減り、生産者も減少している、萌芽を再生という成長過程で必要な木を切ることや煙が出ることに対して移住者の理解が得られない。

いーな桜街道



将来への取組

● 住んでいる人だけでなく、関わりのある方や興味のある方を巻き込み、知ってもらう

- ・再生された里山で文化的な活動(森のコンサート、ウォーキングイベントなど)や教育(自然体験学習など)、スポーツ(スポーツサイクル)が行われ、里山保全の意義を啓発する機会を増やす
- ・里山保全のため、獣害対策を強化する
- ・AIやICT活用で監視などの保全活動を省力化する
- ・空き家や空き地の状況を把握し利用につなげる
- ・緑の散策路、並木道等の整備し、良好な景観を創出するとともに、地域で、清掃や維持管理に携わるしくみをつくる

里山サイクリング風景



うまれる変化

● 花と緑の周遊散策路や里山に関する関心が深まり、魅力を未来につなげようとする

- ・里山への意識が高まり保全活動が広がる
- ・里山に人の手が上手に入り、加工して収入になるなど生産性を生み出し、意欲が高まる
- ・「保全」と「再生」が両立する活動に関心が高まり、「行って見て、歩いて、参加し体験する」機会が増える
- ・ジビエ料理を目当てに観光客が訪れる
- ・花や緑の周遊散策路が整備され、人が集まるようになる。また、景観を維持しようとする人が増える
- ・自主的なネットワークづくりや、コーディネート能力の向上に取り組む

里山の風景



めざしたい姿

● 里山保全の意義を知り、自主的な保全活動が拡がり、散策路等が管理され再生する

- ・テクノロジーの進歩で保全活動が省力化され、里山に住むこと(来ること)へのハードルがさがり、地域が活性化する
- ・菊炭や原木椎茸など里山の産物の人気が高まり事業が成り立っている
- ・さまざまな担い手が育ち、適切な管理が行われ、エドヒガン桜、台場クヌギはじめ里山が美しく保存継承されている
- ・空き家の利用など、地域外の人でも複数の家を持つことが可能(二拠点居住)になり、都市部に住む人たちを呼び込み地域活性化につながっている
- ・積極的な保全活動に参加し、自らの活動と他と連携して幅を広げ効果を高めている
- ・桜・新緑・紅葉など季節を問わず人が訪れる景観・環境が地域で守られ、花(桜など)・緑の回廊として国内外からも高い人気が出ている

R2 県民意識調査結果(阪神北摂民局独自調査)

- 1) あなたは、阪神北地域の里地・里山、ため池、湿地、県立公園など「北摂の里山」を訪れたことがありますか。
- 2) あなたは、森林ボランティアなど「北摂の里山」を守る活動や活動を支援する取り組みに参加したいと思いませんか。

| 区分 | | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|---------|----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1) 里山訪問 | (ある) | 49.7% | 50.0% | 40.8% | 38.5% | 44.7% |
| 2) 里山活動 | (すでにに参加している 又は 今後参加したいと思う) | 19.4% | 16.4% | 12.1% | 16.3% | 16.0% |

- 「北摂の里山」を訪れたことが「ある」と回答した者は平成29年度から減少傾向にあったが、今年度は44.7%である。「北摂の里山」を守る活動に「すでに参加している」、「今後参加したいと思う」と回答した者は、近年16%前後で推移している。

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

みんなが憩う阪神なぎさ回廊

- 阪神なぎさ回廊は、尼崎、西宮、芦屋の臨海地域の海辺の魅力があふれる遊歩道や親水性の高い護岸などを結ぶ回廊です。
- 海(自然環境)と都市(人工的環境)が接する「なぎさ」を地域のシンボルとして捉え、尼崎 21 世紀の森づくりや尼崎運河再生プロジェクトを地域住民と協働で実施し、自然と都市の再生を図る環境先進都市づくりを進めています。
- 尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境を創出し、環境共生型のリゾート空間の再生を目指します。

「尼崎 21 世紀の森」まちあるき



課題

将来への取組

●なぎさ回廊の知名度の低さ

- ・兵庫県が阪神なぎさ回廊の整備を行っている
- ・「尼崎21世紀の森」は、利用者が少ない
- ・阪神なぎさ回廊を楽しみながら阪神の魅力を感じるウォーキングコースやサイクリングコースが全部で7コースある
 - ✓ 武庫川・今津コース(7.5 km)
 - ✓ 西宮・香櫨園コース(10.5 km)
 - ✓ 尼っこりんりん・ロード(6 km)
 - ✓ 武庫川・甲子園コース(10.5 km)
 - ✓ 香櫨園・芦屋コース(9.5 km)
 - ✓ 尼崎コース(11.4 km)
 - ✓ 芦屋コース(6.1 km)
- ・西宮浜、南芦屋浜についてもウォーキングコースやサイクリングコースになっているが訪れる人が少ない

【みんなの声】

- ・海岸沿いに観光・散策できる場所が少ない。
- ・尼崎の運河は、きれいけど人がいない。オランダの運河では情報がたくさん発信されている。この地域がオランダのようになれば良い。

●地域の人だけでなく多くの人に知ってもらい楽しんでもらう

- ・海岸部の親水空間が知られるようになる
- ・サイクリングコース等を地域の人を楽しみ習慣になる
- ・小中学生の遠足コースにもなり地域の人に親しまれる

【現在の活動例】

・

【みんなの声】

- ・尼崎をベネチアのような住宅街にするという考え方もある。ゴンドラがあったり、家があったり。30年くらいのスパンであれば考えることができる。

うまれる変化

●阪神の地理を活かした魅力のある阪神なぎさ回廊になる

- ・海岸部の親水空間が人々の憩いの場、レクリエーションの場として賑わう
- ・運河空間の親水空間の活用が進む
- ・阪神なぎさ回廊周辺に様々な店舗ができる
- ・尼崎 21 世紀の森ではスポーツを楽しみ、いつでもスポーツや食のイベントが行われている
- ・尼崎の森中央緑地ではヨガやミニキャンプ、だれでも楽しめるスポーツが行われている
- ・「森と水と人が共生する環境創造のまち」を実現するために、多様な生態系を育む拠点としての森づくりを核として、森が有する様々な環境創造、保全効果に加え、陸域でのまちづくり、水域での水辺づくり、そしてこれらを連携するモビリティを構築する

めざしたい姿

●阪神らしさのある人気観光スポットになる

- ・都市近郊海岸リゾート空間として再生
- ・阪神地域の観光名所となり国内外から多くの観光客が訪れる
- ・海沿いではリゾートのように賑やかかつゆったりした時間を楽しめるような場所になる
- ・「森と水と人が共生する環境創造のまち」を実現している

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち 再発見で魅了する「阪神間モダニズム」

- 阪神間モダニズムとは、明治末期から昭和中期にかけて、商都大阪と港町神戸の間に位置する阪神間の鉄道沿線の住宅地開発によって生まれた新たなライフスタイル、芸術文化、価値観などの時代の潮流を指し、独創的な建築物などからその様子をうかがうことができます。
- 文化、芸術、経済などは新しい考え方や文化を柔軟に取り入れる寛容な風土を育みました。
- 阪神間モダニズムの魅力を認識することにより、シビックプライドが醸成されるとともに、デジタル技術を活用して、継承することが必要です。

課題

●阪神間モダニズムの認知度向上

- ・阪神間モダニズムについて阪神間での認知度が低い
- ・阪神間モダニズムの作品は、建築・文学・芸術など多岐にわたる(作品例)
建築・・・尼崎市開明庁舎、武庫大橋、関西学院大学、ヨドコウ迎賓館、神戸女学院、甲子園会館
文学・・・谷崎潤一郎「細雪」
音楽・・・貴志康一(バイオリン)
美術・・・小出櫓重
- ・阪神間モダニズムの象徴となる建築物などは管理と費用がかかり、継承保存が難しい

将来への取組

●幅広い人に阪神間モダニズム知ってもらう

- ・子どもから大人まで阪神間モダニズムに対する認知を拡大するために、阪神間モダニズムに関する産学官連携の研究プロジェクトを実施する。
- ・阪神地域の小中学で、阪神間モダニズムについて学ぶ機会を増やす
- ・阪神間モダニズムを学ぶ場や機会が増える

【みんなの声】

- ・オンライン化が進み、デジタル社会になるからこそ、情操教育に力を入れてほしい。無精人間を生み出さないためにもアナログな部分は大切である。

阪神電車第一号車：阪神電気鉄道株式会社社史

うまれる変化

●阪神間モダニズムに関する関心が深まる

- ・研究プロジェクトの成果を活かしてVR、AR、MRなどへの住民参加の社会実験を行う
- ・阪神間モダニズムを知り、住民や関わる人が地域に愛着を持つ
- ・阪神間モダニズム展などイベントが増える
- ・デジタルアーカイブの構築を進める

白髪一雄《作品Ⅱ》1958年油彩・とりの子紙

めざしたい姿

●阪神間モダニズムの発展と継承

- ・VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)なども活かして保存継承され活用されている
- ・阪神間モダニズムのイベントが話題になり人気を呼ぶ
- ・阪神間モダニズム(建築など)を継承し次代へつなぐ活動が生まれる

2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

生涯の学びと次世代につなぐ阪神文化

- 「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査では、住んでいる地域のことに関心がある人の割合が、県内の他地域と比べ高い割合となっています。
- 阪神地域は特色のある博物館、美術館やホール、スポーツ施設もあり、地域と一体となった芸術活動や、スポーツ活動が展開されています。地域には公民館も多数あり、地域住民のつどいの場を形成するだけでなく、地域のことを学ぶ場としても提供されています。
- 「地域を知るには地域の大人から聞く」多くの大人がこれら身近にある施設で、生涯学習の機会を得るとともに次代の子どもたちにも継いでいきます。

課題

- 伝統や継承文化についての認知が希薄であり、心のあそびやゆりの教育が少ない

- ・子どもは社会との接点が少なく、体験学習やイベントなど多世代交流の機会が少ない。
- ・地元の歴史文化をはじめ、地域の資源事を知る機会が少ない。
- ・大学や地域の公民館や施設で多数の学習講座があるが、いろいろな世代の人が学び直してきていない。
- ・学び直しが趣味の範疇に収まらず、学びから地域活動につながる人材育成が必要である。

【みんなの声】

- ・子どもころの体験は地域への愛着にもつながるため、若年層を引き込んで、歴史文化をはじめ地域のことを知る機会が必要である。
- ・オンライン化が進み、デジタル社会になるからこそ、情操教育に力を入れてほしい。無精人間を生み出さないためにもアナログな部分は大切である。

将来への取組

- 原体験を得る機会、学びの機会をつくり、多世代が交流できる場所を増やしていく。

- ・小中学校の授業や地域のイベントで地元文化に触れる機会を増やす。
- ・地元学の開催により、地域と連携して勉強会を行う。(尼崎城、酒蔵産業、食品産業、西宮えびすなど)

【みんなの声】

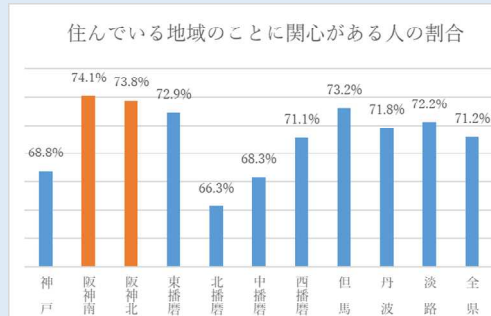
- ・中学生や高校生でも「地域でこんなことができる」「何かやってみよう」「起業してもいい」と思える機会や、学びのためであれば何をしてもいいという場所があればいい。自分でプロジェクトをやってみる機会を多く与える事が大切だと思う。
- ・イルミネーションでは、幼稚園児もクリスマスツリーの飾りつけをしていく。少しでも地元へ愛着を持ってもらうことから始めたい。歴史文化を後世に上手く伝えていくのが市民みんなの願いだと思う。それを伝えていくシステム(教育)を設けていかないといけないと思う。

うまれる変化

- 地域を知ることや興味のあることの学びを深めることに関心が高まる。

- ・小中学校で、地元の歴史や文化への認知度が向上する。
- ・学校、大学が地域と一緒にワークショップを開催し、地域の人々が学ぶ機会が増える
- ・地域の子どもをはじめ、誰もが専門家による地元を学び知る機会・講座が充実し関心や意欲が高まる。

R3 県民意識調査結果



めざしたい姿

- 子どもの頃から自然、歴史・文化と共に成長できる環境が整い、が自主的に学ぼうとする

- ・原体験を多く得た子どもが地元へ愛着を持ち、深く理解し、積極的に地域のことを学ぶ人が増える。
- ・誰もが生涯学習講座のリーダー、講師になって学びあい教え合う。
- ・住む人、出身者が地域について自信と誇り(シビックプライド)が醸成される

【みんなの声】

- ・「やりたい気持ち」や「やるべきこと」を拾い上げる場所があれば、面白い発想がうまれると思う。

3 みんながつながるやさしいまち 地域で循環するエネルギー

- 近年、気候変動に伴う風水害等が増加し、大規模停電等ライフラインの寸断が多発しています。将来的、気候変動による影響がさらに拡大する可能性が高く、災害の多発が予想されます。災害に対応するためにも阪神地域の特徴を活かして、強靱で持続可能な地域づくりにつなげていく視点も重要です。
- 移動手段についても脱炭素に向けた取り組みが始まっており、電気自動車、燃料電池車、シェアリングカー、小型モビリティなど多様な移動手段を選択して、誰もが楽に動き回れる環境が整備されることが求められます。

課題

将来への取組

●脱炭素社会に向けての意識の高まり

- ・省エネ意識やCO2排出の少ないライフスタイル、脱炭素社会(プラスチックごみの削減等)への転換が進んでいる
- ・ヒートアイランド現象により、阪神南地域の都市部は、阪神地域の他地域に比べて気温が高い
- ・気候変動の影響による局地的な豪雨、台風による風水害(高潮等)多発している
- ・発達している公共交通機関と利用者低迷による維持困難な地域が存在し、移動手段の格差が発生。高齢者や障害者の買物や通勤が不便な地域がある

【みんなの声】

- ・国道43号線の排気ガスが気になっている。
- ・公園がもっと増えると緑も増えやすいのではないかな。
- ・クリーン&デジタルが進めばもっと住みやすいまちになる
- ・低炭素化を進めるため、水素やアンモニアを使ったエンジンを開発している。もっと多くの人に脱炭素について関心を持って欲しい。

●太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電など再生可能エネルギーの導入拡大

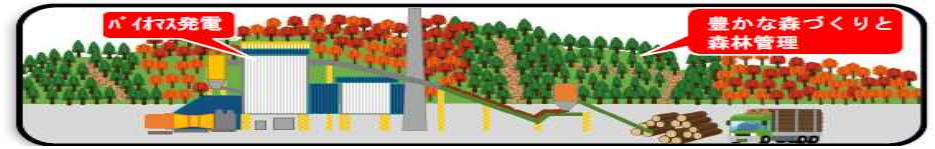
- ・ため池を有効活用した太陽光発電の導入に向けた研究の推進
- ・地域団体が小水力発電の事業化に向けて調査や勉強会の実施
- ・再生可能エネルギーを利用した未利用間伐材や広葉樹など木質バイオマス資源の有効利用

現在の活動例

- ・再生可能エネルギー導入に関するワークショップの開催
- ・CO2吸収源としての森林・里山保全のため、小学生を対象とした里山体験学習の実施
- ・先導的な取組事例の紹介

【みんなの声】

- ・阪神地域が脱炭素の先進地として有名になってほしい
- ・森の間伐資材を有効利用したい
- ・環境に優しく、阪神地域らしい緑、景色があるまちをめざしたい

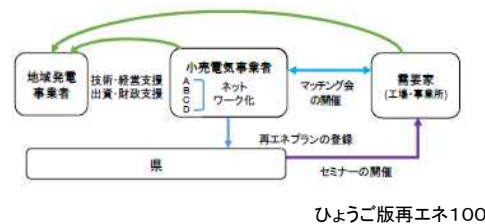


- 北摂里山の木質バイオマス資源、ソーラーシェアリングなど阪神地域の資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消により、エネルギーを地域内で循環させることで経済循環、新たな雇用を創出し、自立した地域づくりにつなげる必要があります。

うまれる変化

●地域循環共生圏のモデル事業の実施と次世代モビリティの活用検討

- ・農業生産と発電を同時に行うソーラーシェアリングが普及し始めている
- ・小水力発電や小規模バイオマス(木質バイオマス)ボイラーにより生じる熱を有効利用した地域循環共生圏のモデル事業が実施されている
- ・県内の再生可能エネルギー由来の電力を県内事業者へ提供する「ひょうご版再エネ100」が展開されている
- ・Maas(※)の機能を活用したデマンド交通の実証実験や自動運転の公道走行実験など次世代モビリティ導入に向けた取組が行われている



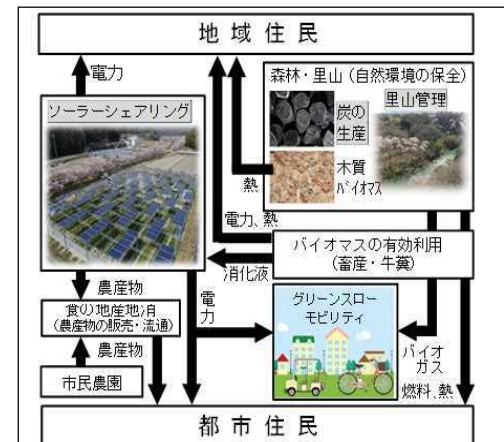
※Maas(Mobility as a Service:通称マース)とは、交通手段をまとめてより便利な移動を実現する仕組み

めざしたい姿

●エネルギーを地域内で循環 ●脱炭素が進み、環境にやさしい移動が普及

- ・エネルギーを地域内で自給することで地域経済の循環を生み出し、地域が自立している
- ・阪神地域の自然的要因や市街地の人工排熱、風通し等の人為的要素を含めた特性を把握したまちづくりが進められている
- ・低炭素なバス、シェアリングの車、小型モビリティなど、環境にやさしく多様な移動手段が整っている
- ・各地に移動拠点や幅広い世代を対象にしたモビリティ、自動運転の普及が進み、高齢者、障害者が快適に移動できる

地域循環共生圏のイメージ



3 みんながつながるやさしいまち

子どもの元気と世代を超えてつながるニュータウン

- 阪神地域は、既存の住宅エリアも発展してきた地域ですが、西宮市、川西市、三田市、猪名川町においてはニュータウンも開発され、人口増加をしてきた地域でもあります。
- 特に三田市は、ウッドタウンなどの開発により、近年まで人口増加をしてきました。
- ニュータウンの高齢化が進んでいますが、若い世代が転入しても経験豊富な高齢者世代が子育てのサポートやアドバイスができ、地域がつながるニュータウンを目指します。

県民意識調査独自調査結果など
(若い世帯はどんな生活環境を望んでいるか)

再生したニュータウンの風景

課題

将来への取組

うまれる変化

めざしたい姿

●高齢化にともない、オールドニュータウン化が進んでいる

- ・成熟したニュータウンからは若者層の流出が続く、高齢化が進んでいる
- ・公共交通機関の路線や便数の減少など、エリア内外を結ぶ公共交通機関の確保が困難になりつつある
- ・分譲時期をずらすなど、年代構成があまり考慮されなかったニュータウンでは、住民がそのまま高齢化するなど高齢化が進みやすい
- ・当初は小学校や中学校が整備されるなど、子育て世代に住みやすかったが、施設が老朽化し、子育て世代に使いにくいものになり、子育てのしにくいまち、若者にとって魅力のないまちとなり、住民の入れ替わりが進まず、いわゆるオールドニュータウン化が進んでいる

郊外型レジャーイメージ写真

●転出転入の促進、まちの若返りをすすめる

- ・住んでいる人々の新陳代謝が促進されるような取組を進める
※買い換えなどの引っ越しを促進させる
※空き家の状況を把握し利用につなげる
- ・子育て世代が住みたくるように、生活利便施設や育児・教育関連施設を充実させる
- ・豊かな自然が身近にあるため、周辺エリアも含めた魅力向上に取り組む
- ・行政は若者世代やファミリー層の住宅の確保への助成に積極的に支援する

【みんなの声】

・ニュータウンで高齢化が進んでいる。このため、子どもを巻き込んで「ふるさとづくり」を行っている。しかしながら、ニュータウンには伝統行事がないことから、人と人のつながりを維持していくことが難しい。

●ニュータウンの活性化と、周辺地域の魅力向上

- ・落ち着いた住環境で子育てをしようとする若い世帯が増えている
- ・先輩世代から育児のアドバイスをもらえる施設ができ、地域の交流が深まる
- ・ニュータウンの周辺部でグランピングなどの新しい郊外型レジャーの人气が高まっている
- ・Maasの機能を活用したデマンド交通の実証実験や自動運転の公道走行実験など次世代モビリティ導入に向けた取組が行われている

●ゆとりが生まれ、誰でも楽しんだり、成長できる環境があり、誰もが望んだくらしができる

- 時間や気持ちにゆとりができる
- ・賃貸住宅も含めて移住しやすい環境が整う
- ・地域で気軽に集まれる場所やコミュニティができている
- ・子どもたちと高齢者の交流が生まれている
- ・シングルでも参加できるコミュニティなど、様々な住民がコミュニティに参加している
- 成長できる環境
- ・住民自らができるサービスを提供するなど住民同士の交流が盛んになり、新たなビジネスも生まれている
- 充実した生き方の浸透
- ・都市と自然がどちらも身近である環境を活かして、様々なレジャーを楽しんでいる
- ・都市部とは違う、落ち着いた環境を活かした生活を楽しんでいる

3 みんながつながるやさしいまち

おせっかいがおせっかいでない家族のようなまち

- 現代社会では、個々人のライフスタイルの変化や多様化、高齢者の一人暮らしの増加により、個々人間の触れ合いの機会や関係が希薄になっています。
- 年齢や性別、障がいなどに関係なく声をかけあい、つながりが構築され、助けがほしい人と助けたい人がつながることで地域への愛着が深まることを目指します。

課題

●頼れる身近な人がおらず孤立し、つながりが希薄になっている

- ・地域に知り合いがおらず、頼れる身近な大人がいないと保育が孤立する。子育てを保育や教育現場に依存する傾向にある。
- ・つながりが希薄になる理由として、「お隣さんが誰か分からない」「コミュニケーション力の低下」「地域で起きる犯罪」「集いの機会が少ない」「コロナによる影響」が考えられる。
- ・特に転入者にとっては、参加できるコミュニティがわかりにくく新しく参加することが難しい。

将来への取組

●助けがほしい人と助けたい人をつなげる仕組みをつくる

- ・キャンプやバーベキューなど、地域主体の一体感や助け合い機運を醸成するイベント等を行い、地域の子どもと地域の大人が触れ合う機会を作る。
- ・地域で子どもを育む一環として、登下校のあいさつや見守りパトロールなどに、シニア世代などがかわかり、子どもと顔なじみとなる。

【将来について考えるワークショップの意見】

- ・現実の家族には相談できない悩みを相談できるような憩いの場所を作ったり、若者と大人など特性を登録した上で、その情報からAIが参加者の興味関心や専門分野などを元にマッチングを行うことで、解決を図る。

うまれる変化

●AIの活用による実際と異なるコミュニティでの繋がりが可能になる

- ・登下校のあいさつ運動などで、治安が維持され、子育てにおいて安心安全を構築しているという意識を持ってもらう機会になり、若い家庭の定住意識が高まる。子ども達はあいさつやマナーを守ることへの気づきの機会となる。
- ・年齢、障害の有無にかかわらず、つながりが構築され、助けがほしい人と助けたい人がつながる。自由に生活することができる。

【将来について考えるワークショップの意見】

- ・IT活用で気軽に情報交換や相談ができるバーチャル家族のしくみや、困っている人と地域をつなぐマッチングアプリで支え合うしくみがあれば、共通の趣味や同じ目標を持った、実際とは異なるコミュニティに身を置くことで個々の成長につながる可能性がある。

めざしたい姿

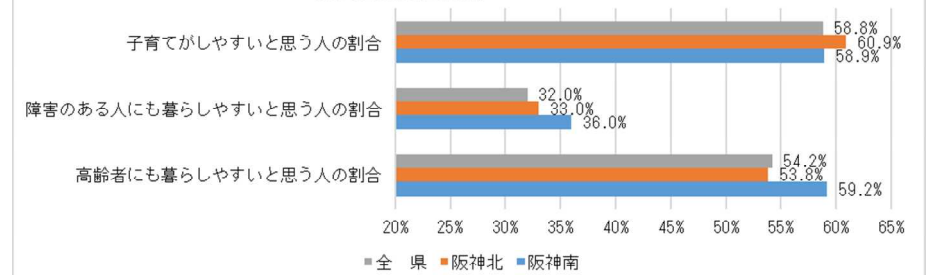
●地域の養育力を向上させ、おせっかいがおせっかいでない地域を実現する

- ・少子化・共働き家庭が増える中で、顔を見知った隣人同士を作り、困難に陥った時に皆で助け合える繋がりができてくる。また、IT活用のネットワークで地縁がなくても新たな縁をつくるのが可能になっている。
- ・オンライン、オフラインを問わず、意思疎通が可能となり、地域で安否が確認できるようになると、障害者、高齢者・認知症の方も住みやすいユニバーサル社会へとつながっていく。
- ・地域で子どもを育む養育力が向上し、家庭内だけでなく、地域からも学ぶことができる。
- ・地域の子育て世代、障害者、高齢者、周囲の人に関心を持つようになり、「地域のおせっかい」のしくみが日常的(当たり前のこと)になっている。
- ・人々が地域に愛着を持ち、住み続けたいと思うようになる。

【県民からの意見】

- ・今後どんなにIT技術が発達しても、大事な価値は、「人間の温かみ」だと思う。

R3 県民意識調査結果



3 みんながつながるやさしいまち みんなでつくる安全な暮らし

- 阪神地域は兵庫県の中でも都市化が高度に進んだ地域ですが、武庫川などの河川や沿岸部に海拔ゼロメートル地帯があるなど、一度災害が発生すると甚大な被害が発生するおそれのある地域でもあります。
- これらの災害に対する備えは、長年にわたって取り組んできましたが、近年、県下の様々な地域が災害に見舞われており、阪神地域においても平成30年台風第21号による高潮災害が発生しました。
- ハード対策は進められていますが、住民は想定を上回る事態に備える必要があります。

課題

●南海トラフ地震、豪雨災害などの災害の発生リスクが高まっているが、対策を進めている

- ・今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると予測されており、津波被害の発生が懸念されている
- ・温暖化の進行とともに、大雨が増加、線状降水帯など雨の降り方も変わってきており、水害が激甚化傾向にある
- ・台風に伴う大雨や暴風、局地的に集中する大雨により、河川氾濫や土砂災害、高潮被害の危機
- ・ハード対策は順次行っているものの、ハード対策の想定を上回る災害が発生するおそれもあるため、避難等のソフト対策が必要

将来への取組

●防災訓練、災害弱者への個別支援計画などのソフト対策を住民と一体となって充実させる

- ・災害時に適切な行動ができるよう防災訓練に取り組む
- ・地域の災害弱者の情報をケアマネージャーや自治会と共有し、個別支援計画を作成する
- ・ハザードマップにより、居住地や勤務地エリアの危険箇所を常日頃から把握する
- ・防災意識を醸成するため、学校での防災教育を更に充実させる
※学習指導要領に沿った防災教育ができるよう関係機関が連携・協力

【みんなの声】

- ・「一人は万人のために、万人は一人のために」、住民の自発的活動を増やす取り組みや、将来の担い手である児童、生徒、学生との連携が必要である。(小学校などで企画しているコミュニティスクールなど)

コワーキングスペースやサードプレイスの様子

うまれる変化

●災害に対するハード対策、ソフト対策が整ってくる

- ・各地域における災害リスクに応じ、ハード対策だけでなくソフト対策も含めた総合的な対策が進む
- ・個別支援計画に基づいた災害弱者を地域で助けて避難できるしくみができている

【みんなの声】

- ・市民一人ひとりに対して、危機意識を持ってもらえるような啓発活動を行い、災害弱者自身が行動できるような支援を増やす。その対応として交流が増える施策が極めて大事である。

イメージ写真

めざしたい姿

●災害が発生したとしても、落ち着いて避難行動ができるという自信を誰もが持っている

- ・ハード整備で一定規模の災害を防ぐとともに、コミュニティでの助け合い避難ができて災害発生時にも人命が守られている

【留学生を受入れている方や防災士の声】

- ・ベトナムの留学生、実習生を2年前から受け入れ、地域の防災活動に参加している。
- ・人間らしい生活なしでは、充実した生活はできない。地域コミュニティの交流を増やす策を構築し、お互い様の社会を作ることが重要で、災害対応を考えれば、被災が想定される地域との支援・連携に目を向ける事も必要である。

3 みんながつながるやさしいまち

あなたも私も多文化共生の仲間

- 阪神地域には産業が盛んなエリアもあり、出稼ぎ労働者を受け入れてきた地域ですが、近年は、技能実習等のため地域で暮らす外国人も増えてきています。
- しかし、言葉の壁もあって、日本で生活するために必要な情報が外国人に伝わらず、また、地域住民からすると、日本になじもうとはしないという印象になってしまっています。
- 同じ阪神地域住民として、地域のコミュニティ内で相互理解が得られ、異なる文化も認め、敬意を払う多文化共生社会の実現が必要です。

課題

● 在日外国人の多様化、増加に伴い、地域に溶け込むことが難しい人が増加している

- ・東南アジア、南米等世界各国から技能実習等や留学など観光以外の理由で一定期間を日本で暮らす人が増加している
- ・自分と異なる文化の人との積極的な交流が難しい
- ・外国人にとって日本語の習得が困難で、子どもの学校や地域とのコミュニケーションが少ない
- ・外国人にとって地域での生活に必要な情報が伝わらない

【外国人の方々の声】

・日本にいて困ったことはあまりないが、母は日本語がわからないので、全部私が通訳している。

将来への取組

● 地域に暮らす人々が、日本や外国の文化を学び、異文化交流をすすめる

- ・教育、意識啓発、交流事業によって地域に多くの文化的背景を持つ人々がいるということに対する理解が進む
- ・日本人県民と外国人県民が相互の生活習慣や文化を知る機会を持てるようにする
- ・母国語能力が不十分な外国人児童や生徒に母国語教育を実施する

【外国人の方々の声】

・他言語の表示があるが、英語を選択すると、情報量が日本語表示の半分くらいになってしまう。
・日本人はほかの国のことをあまり知らない。アメリカにしか興味が無い。私がスペインのことを話していても、興味がなさそうで寂しい。

うまれる変化

● 地域に暮らす多様な文化的背景を持つ人々（日本人含む）の間で異文化交流がすすむ

- ・自動翻訳で会話での言語問題はほぼ解決している
- ・まちなかに多様な人種の人々が存在することが自然になっている
- ・異文化の人々も地域に溶け込んだ生活を送ることができるようになる

【みんなの声】

・外国にルーツのある児童や生徒に対し、日本語学習と、母語や母国文化の継承の両立が必要。

・地域活動において外国人住民の参加を今まで以上に呼びかけることにより、日本人住民にとって次世代の地域活動の担い手が見つかり、外国人住民にとっては自己実現の場となる。

・言葉より先に大切なのは、違う世界に飛び込むこと。日本人はシャイだから、飛び込みたいと思ってくれるようになればよい。

めざしたい姿

● あらゆる人々がお互いに尊重しながら、共生することができている

- 他者への尊重
 - ・国籍や人種などに関わらず、それぞれの個性や文化的背景を尊重し、多様性を受け入れることができている
- 異文化交流、共生の実現
 - ・コミュニティに新たな地域文化と交流を生み出している
 - ・外国人県民の自己実現の場が商店街や空家を活用してできている
 - ・様々なコミュニティにおいて、外国人が参加することが当たり前のこととして受け入れられている

【みんなの声】

・外国人を支援対象として扱うばかりでは外国人の自己肯定感が低下するので、社会参画を促し、自身も社会の構成員の一員である意識づける必要がある。

・外国人県民とは対等に接する。まちづくりに関しても、外国人県民の出身地での知見など、学ぶことが多い。外国人県民には、日本人にはないスキルを持っている人が多い。

・まちづくり分野でもチャリティ活動などは外国人県民の方が、日本人よりも上手である。

4 にぎわいのあるまち

アートが人を呼び広げる交流

- かつては「宝塚映画製作所」で多くの映画を制作し、映画芸術の魅力を発信していた宝塚。現在は、尼崎市のピッコロシアター、伊丹市のアイホール、西宮市の県立芸術文化センター、宝塚市の文化芸術センター、川西市のキセラホールなどで、様々な音楽や舞台芸術が展開され、身近に接する機会もあり、まちなかをステージにしたアートイベントも催されています。
- 身近にアートが感じられるよう、芸術体験の機会を増やし、アートを通じた交流により、阪神地域の魅力を高めます。

課題

● 阪神地域では、多彩な特色あるアートイベント、舞台芸術が開催されているが、阪神地域の人々にも、文化資源やアートイベントの認知度が低い

- ・誰もが身近に芸術に親しむ機会を提供するため、阪神地域では多彩な特色あるアートイベント、舞台芸術が開催されている
- ・多種多様な特色あるホールや美術館、博物館が阪神地域内には数多くある
- ・阪神地域の人々にも、文化資源やアートイベントがあまり知られていない
- ・運営資金の確保が難しい状況にある

将来への取組

● 先駆的なアートイベントを開催できる土壌づくりが必要である

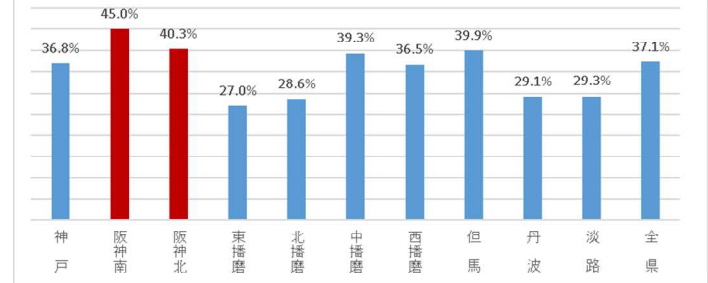
- ・阪神地域の人々にも、文化資源やアートイベントが認知されるようになる
- ・運営資金を確保する仕組みづくりを整えることが必要である
- ・先駆的なアートイベントを開催できる土壌づくりが必要である
- ・芸術の“場”として、地域の公民館や空き店舗、廃校施設、空き教室、公共施設のロビー、駅前広場の活用など身近な場所での開催や演奏動画配信等 ICT を活用した活動の“場”づくりにも取り組む
- ・クラウドファンディング等で芸術文化を振興する

【みんなの声】

- ・イベント等に参加する人が「ジブンゴト」として考え、「一緒に」楽しめるよう意識して取り組みたい。

R3 県民意識調査結果

お住まいの市・町では、芸術文化に接する機会があると思う人の割合



うまれる変化

● VR 等で阪神間のアートが話題を呼ぶ

- ・音楽、舞台芸術、美術などの様々なイベントが日常的に催され、多くの人が参加して賑わい、また多くの人が交流している
- ・アートイベントの地域間での連携を強化するとともに、関係人口が生まれるようになる
- ・VR 等で阪神間のアートが話題を呼んでいる

【みんなの声】

- ・イベントに来る人は、地域づくりに参画しに来るのではなく、自分自身が楽しみに来る人ばかりである。そういう地域でありたい。

めざしたい姿

● アートの魅力でクリエイターが集まり起業したり、xR で阪神間のアートイベントが世界と交流し、多くの人を引き寄せる

- ・アートの魅力でクリエイターが集まり起業している
- ・クリエイターが地域の人々とアートの魅力を活かしたまちづくりをしている
- ・xR で阪神間のアートイベントが世界と交流し、多くの人を引き寄せている

【みんなの声】

- ・事業に出演するアーティストと参加者並びに参加者同士が交流できるような事業を実施することで、芸術文化を通じたつながりや、さらなる活動の広がりを生み出す場を提供している。
- ・バーチャルなアートイベントが可能になれば、リアルなアートイベントは、美や芸術の鑑賞だけでなく、リアルな熱気を感じることに価値がシフトする。

4 にぎわいのあるまち

訪れたい訪れやすい阪神地域ツーリズム

- 阪神地域にはのんびり過ごせる田舎町や発展した街、素敵な海沿いなど多くの魅力があり、多くの人の訪れたい街になる魅力があります。
- しかし、阪神地域の自然、絶景スポット、伝統文化の知名度は低く、触れられる機会も少ないです。
- 阪神地域の魅力をより発展させ、多くの人が訪れ、地域の人からも愛着のある阪神地域を目指します。

課題

● 阪神地域の魅力を認識する

- ・日本遺産、多彩な公園、歴史伝統資源が多彩にあるが、地域資源がストーリーとしてアピールできておらず認知、話題不足
- ・国内旅行の需要が高く、日本遺産や歴史伝統資源に関する探究意欲が高いが、国内旅行に行きたい人々はデジタル情報のみの情報収集に止まっている

【みんなの声】

・(阪神北地域は)日本への玄関口である関西国際空港、大阪港から大阪-京都を訪問する俗に言う“黄金ルート”から外れた印象がある。

・魅力の見せ方が重要。人の温かさや昔のものを大事にする「おしゃれ田舎」に魅力を感じる。

将来への取組

● 住んでいる人だけでなく、関わりのある方や興味のある方に知ってもらう

- ・地域資源を磨き直し、地域資源ごとのつながりをアピールする
- ・阪神近郊地域の住民に、周遊情報や地域の情報などを発信し、マイクロツーリズムを推進する
- ・行政や観光業者などが阪神地域を代表する観光スポット等で積極的にイベントを開催し、地域ブランドの魅力が拡大する
- ・国内の方も海外の方も楽しめる周遊コースを設定する
- ・地域資源を磨き直し、地域資源ごとのつながりを海外にアピールし、インバウンドツアーを誘客する

【みんなの声】

・「宿泊してでもいきたい」という資源がない。

・日帰り者をターゲットに空き家や古民家を活用する必要があるが、市街地開発の規制が厳しすぎる

うまれる変化

● 阪神地域の魅力が浸透する

- ・関西の人が日常的に遊び、憩うマイクロツーリズムが普及
- ・阪神地域の特色を活かした企業やイベントが増える
- ・阪神地域のブランド力が高まり、商品や観光地や有名になる
- ・伊丹空港、神戸空港、関西国際空港の三空港を一体活用する

【みんなの声】

・マイクロツーリズムでは、地域資源の磨きなおしが必要になると感じた。従来、「日本全国から」「世界から」「国際的」などがキーワードであったが、これからは県内の人に来てもらい、地域の魅力を知ってもらうというのが必要となる。

めざしたい姿

● いつも誰かが訪れるにぎわいのあるまち

- ・インバウンド客も増え、国内外からの観光の注目地になる
- ・阪神地域の観光業が盛んになる
- ・マイクロツーリズムの普及で交流人口が拡大する社会になる

【みんなの声】

・(中国人のホテル利用者からは、尼崎はどこにいくにも便利であるという回答があったので)狭い地域の資源だけでは人を呼び込むにも限界があることを踏まえ、周辺スポットとの近接性や、この地域の場所などを、全国的に周知することが最優先であると考えている。

4 にぎわいのあるまち

多彩な農と美味しい食

- 阪神地域の多様な「農」と「食」に関わる活動拠点をアトラクションとして、地域全体をテーマパークと見立てて、県民（消費者）と事業者（食関連事業者、観光業者など）、農業者が連携して事業を実施し、消費者や観光客の視点を意識しながら、都市・都市近郊農業の魅力アップを図るため、「阪神アグリパーク構想」を推進しています。
- 「メイド・イン阪神」の食材がブランドとして確立し、地域がにぎわうことを目指します。



いちじく
伊丹市
川西市 等

黒大豆枝豆
宝塚市、
三田市、
猪名川町 等

いちご
宝塚市
三田市
猪名川町

葉物野菜
尼崎市
西宮市
伊丹市)

もも
川西市

課題

将来への取組

うまれる変化

めざしたい姿

● 阪神地域こだわりの農産物やブランドを維持する農業継承者が不足している

- ・働き方改革や定年延長により、都会から農業継承のために、Uターンする人も減少する傾向にある。
- ・労働力の高齢化が進み、次世代の担い手が少なくなっており、耕作放棄地が増加している。
- ・人気の高い阪神間のスイーツ、数多い人気の飲食店で阪神産農産物を積極的に利用し、PRする必要がある。

【みんなの声】

- ・輸送技術の進化により、品質や鮮度の良い状態で地域外の農産物が量販店に並ぶ。阪神地域で作られた農産物が、既存の流通経路により、地域外へ出荷されることがあるため、地元農産物の認知度が低いように思う。

● 農業希望者と農地を気軽に組み合わせる仕組み、農業が維持できる仕組みをつくる

- ・「農地を貸したい、借りたい」をサポートし、新規就農希望者や規模拡大を目指す農業者への情報提供を行う。
- ・阪神産農産物を購入できる直売所で、地元農産物等を使った旬の料理の提案や紹介ができるイベントを開催し、情報発信する。
- ・農福連携に取り組むことで、障害者等の就労、自信や生きがいを創出し、担い手不足や高齢化が進む中、「農業における労働力確保」及び「障害者等の就労先確保」といった農業・福祉双方の課題解決につながる。

【農業団体の声】

- ・農業を法人化して生育状況の把握や重機の管理をすることで農家の負担を減らし、他業種からの就農者や転作（米作りから野菜作り等）する人が持続可能になればいい。
- ・大きな冷蔵施設や集荷経路が確立するにより、集中管理ができるシステムができると、農業が続けやすくなる。

● 阪神産食材の人气が高まり、産業としての就農希望者が増える

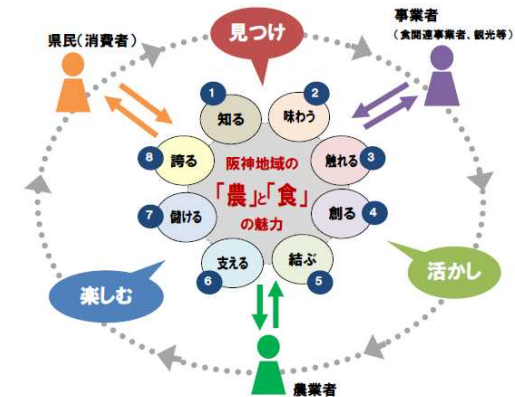
- ・阪神地域の魅力的なスポット、農畜産物、人物の情報を簡単に得ることができ、価値を見いだすようになる。
- ・生産量が確保され、学校給食や多くの店で阪神間食材を積極的に活用することができる。

【みんなの声】

- ・「阪神産食材の日」を設定し、学校給食やそれぞれの飲食店で献立を考えて提供すると、意識が高まり地域が元気になると思う。

● 「メイド・イン阪神」の食材がブランドとして確立し、人气が高まる

- ・地産地消が当たり前になり、農業に興味を持ち、「やってみよう」と思う人が農業に参入し、稼げる産業になる。
- ・「食のまち、阪神」として、他地域からの観光客が増え、各地で阪神産食材を使った料理やスイーツを味わうことができる。



4 にぎわいのあるまち

まちなかのにぎわいを創出する

- 近年では都市部に比べて人件費やオフィス賃料が低く抑えられる、地方や郊外に企業拠点を構えるケースが増え、IT企業の地方や郊外への移転も盛んに行われています。
- そこに住む人たちが企業が、地域の魅力や資源を活かしてまちづくりに取り組むことができれば、興味や関心を持つ人が増え、企業誘致の面でも魅力あるまちになるのではないのでしょうか。
- そのためには、地域外からの新しい人や価値観を受け入れたり、多様な働き方に対応できる場を設けることも重要だと考えます。

課題

将来への取組

うまれる変化

めざしたい姿

●地域産業と空きスペース

- ・大都市に比べて、企画・設計等クリエイティブの仕事やスタートアップベンチャーが少ない
- ・地域企業の事業承継が難しい
- ・規制等で空き家・空地・公園等都市空間が有効に活用されていない
- ・都市空間を活用する担い手不足
- ・空き地、空き店舗の所有者に活用意欲がないため活用が進まない

【みんなの声】

- ・コワーキングスペースにする、借りていくような仕掛けがあれば面白いかもしれない。

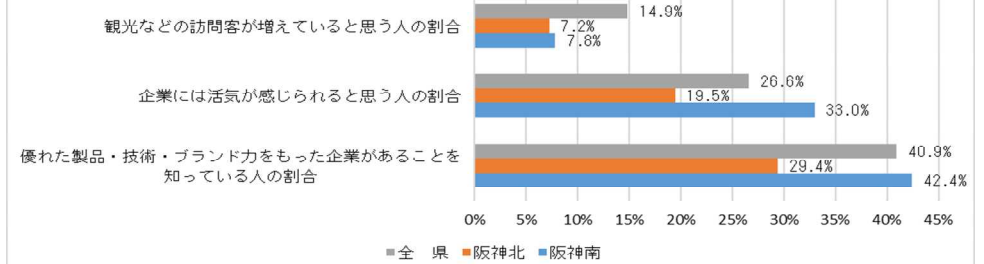
●活用するためにマッチングや規制緩和を行い、発展に向けて準備する

- ・求人情報の地域での集約
- ・地域での企業間人材交流の促進
- ・企業・人材マッチング
- ・再整備やリノベーションで活用促進
- ・公共空間の柔軟な利用を可能にする規制緩和

現在の活動例

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

R3 県民意識調査



●人材の交流が進み意欲ある活用で発展する

- ・人材交流が進み、地域内外の人が域内企業の事業に参加
- ・空き店舗を意欲ある人が活用、商店街がビジネス拠点に
- ・地域企業と結びついたクリエイティブのスタートアップ
- ・公共建築をはじめ使われなくなった施設がリノベーションで活用されている
- ・道路や公園等のオープンスペースを活用するしくみができる

【みんなの声】

- ・「自助・共助・公助」があるが、「共助」の弾力性が強い地域が生き残る。今後はビジネス的な手法、持続可能性のある手法で共助の形を作っていくことが大切である。

●発展した阪神がにぎわい、交流やイベントなどが継続されている

- ・地場産業、地域の中小企業が持続的に発展する社会となる
- ・特色ある企業の存在価値が高まり、雇用の場が確保される
- ・地域企業と結びついて新しいビジネスを起こす
- ・空地・空家をリノベーションや再整備で活用した賑わいや交流の拠点が生まれている
- ・公共のオープンスペースが柔軟に活用されて人が集まる、楽しむしかけが拡がっている

4 にぎわいのあるまち

みんなで楽しむスポーツ

- 阪神地域には甲子園球場やビーチバレーコート、大規模公園、国際規格のプールだけでなく子供向けのスポーツ教室も多くあり、スポーツに親しむ機会は少なくありません。
- 近年では子どもの体力・運動能力は低下傾向にあります。子どもの頃からスポーツに親しむことにより、スポーツの楽しさに触れ、後年になっても体力の維持が図られ、充実した生活を送ることが出来ます。
- 近年、盛んになってきたeスポーツは高齢者や障害者の方も参加しやすく、社会参加の可能性が広がります。

阪神スポーツ応援写真

課題

将来への取組

うまれる変化

めざしたい姿

●スポーツを楽しむコミュニティが活発ではない

- ・世代や障害を超えて一緒に楽しめる活動が不足
- ・里山でのスポーツ活動への関心の高まり
- ・スポーツや外で遊ぶ仲間(友達)が少ないためスポーツ離れが加速し、子どもの体力が低下している
- ・成年の運動実施者の増加に注力する必要がある

【みんなの声】

・サイクルマップはあるが、スポーツサイクルを借りることができる場所(サイクルステーション)がないので、手軽に始められない。

現在の活動例

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

●住んでいる人だけでなく、関わりのある方や興味のある人を巻き込み、知ってもらう

- ・身近な場でのスポーツ体験機会の提供
- ・地域で成人のスポーツ実施者の増加や指導者を育成する
- ・競技力の向上やトップアスリートの育成・強化が図られる
- ・阪神間でスポーツ観戦が盛んになる
- ・密を回避した自然を体感するサイクルスポーツや里山スポーツが盛んになる

【みんなの声】

・北摂地域に関してサイクリング目線では、自然が豊かである。交通量が少なく適度なアップダウンがある。

・県内では播磨中央公園にサイクルステーションができるようだが、1か所だけは意味がない。県民局エリア毎に1か所は整備が必要。

・自転車を通勤に使う人が増加したが、活用できるサイクルロードが少ない。

●スポーツへの関心が深まり、阪神間でスポーツブームが起こる

- ・世代や障がいを超えて楽しむ新スポーツが開発される
- ・スポーツ観戦などスポーツを楽しむコミュニティが増加
- ・障害者スポーツへの参加機会が拡大する
- ・オリンピックや世界の第一線で活躍するアスリートが誕生する
- ・サイクルスポーツやトレイルランが里山スポーツで人気になる

●自主的なスポーツ活動が拡がり、阪神間でスポーツが生活の一部になる

- ・e スポーツや超人スポーツなど世代や障がいを超えて一緒に楽しむ新スポーツが普及
- ・第一線で活躍するスポーツ選手が地域の人に教える機会が定期的にある
- ・大学、企業と連携し、人材交流や施設開放などを進める
- ・阪神地域のスポーツ人口が増え、高校野球の「甲子園」、ラグビーの「花園」のようにスポーツの地域として有名になる
- ・地域住民が日常的にスポーツを行える場として、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるようになる

シナリオイメージの作成にあたって

●作成の留意点

・本シナリオは阪神地域住民が行動するシナリオイメージとして作成しており、シナリオ中に特に断りのない場合は、行動主体は阪神地域住民とする。

・「みんなの声」「生産者の声」「外国人の方々の声」「地域デザイン会議の意見」等は、ヒアリング、アンケート調査、ビジョンを語る会、地域デザイン会議等により聴取した県民の方々の意見を記載した。

●以下の資料等を参考に作成した。

《参考文献》

- ・令和2年度県民意識調査「兵庫の未来を考える」調査結果
- ・兵庫のゆたかさ指標県民意識調査
- ・ひょうご多文化共生社会推進指針（改定）
- ・阪神アグリパーク構想（兵庫県）
- ・尼崎21世紀の森構想（兵庫県）
- ・兵庫県地球温暖化対策推進計画～脱炭素社会に向けて～（兵庫県）
- ・北摂里山黒川案内人ガイドブック（兵庫県阪神北県民局）
- ・ひょうご男女いきいきプラン 2025（第4次兵庫県男女共同参画計画）
- ・兵庫県老人福祉計画（第7期介護保険事業支援計画）
- ・兵庫県保健医療計画
- ・兵庫県スポーツ推進計画
- ・兵庫県ニュータウン再生ガイドライン
- ・阪神なぎさ回廊パスポート（兵庫県阪神南県民センター）
- ・第3期芸術文化振興ビジョン
- ・北摂里山博物館 地域まるごとミュージアム

《参考図書》

- ・WORKSHIFT（リンダ・グラットン、池村千秋訳、プレジデント社）
- ・LIFESHIFT 100年時代の人生戦略（リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット、池村千秋訳、東洋経済新報社）
- ・コロナ後の世界（ジャレド・ダイヤモンドほか5名、大野和基編、文藝春秋）
- ・「国土のグランドデザイン2050」が描くこの国の未来（国土交通省国土政策研究会編著、大成出版社）
- ・宝塚映画製作所 よみがえる”映画のまち”宝塚（宝塚映画祭実行委員会編）
- ・現代日本人の意識構造〔第9版〕（NHK放送文化研究所）
- ・未来の年表、未来の年表2（河合雅司、講談社現代新書）